
トキノソラ～カナシミの楽園～

現－ウツツ－

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

トキノソラ〜カナシミの楽園〜

【Nコード】

N1496Q

【作者名】

現ーウツツー

【あらすじ】

「俺は何を望む」

そう言い彼は空を見上げた

世界観（？）

夢も現実>セカイ<も棄てた時
人は何を見るのであろうか…

初め数ページは前置きです

この世界には様々な種族が繁栄していた。
最も多い人口と平均的な能力の

>人間<

自然と共にあり自然と生きる

>エルフ<

人間が動物の力を手に入れたとされる

>獣人<

竜がその姿を変え人間を模写している

>竜人<

闇の力に呑まれた人間の果てとされる

>魔人<

そして、呪印と呼ばれるものを持ち産まれてきた

>亜人<

世界は魔力と呼ばれる力に溢れ、静かに時を刻み続ける
光を奪われ光を与えられ
闇を奪われ闇を与えられ
世界を奪われ与えられた

世界は彼を愛したのだろうか。
それとも嫌ったのだろうか…

プロローグ（前書き）

前書きにはあまり記載しないようにしたいと思います。
説明やなにかがある場合に記載いたします

プロローグ

狂わされた世界

導かれし忌み子山に作られた村“オルト”

その村は活気があり森に囲まれていた

「それじゃあ今日も頑張りますか！」

小さな村には彼らのような元気な男性が数多く居るようで家を出ると同じように仕事に向かう人が伺えた

彼らの村にはそんなに技術が栄えておらず彼らの仕事は農業、建築、猟師などが殆どで自給自足の生活をしていた。

「かえってきたらあそぶんだからね？おとうさんいつてらっしゃい。」

覚えたばかりのようで彼は出かけて行く父親に言った。

彼の年齢は2歳。その父親の頬には魔法陣のようなものがあり少年の瞳にも同じようにそれはあった。

いつものように微笑ましい村の姿

そして悲劇は幕をあけた…

人族を中心に存在する呪われた印を持つ者

“亜人”

彼らはただその異端な能力により存在を否定された。子供を思う親達はその子をその村に預け（捨て）る事で守っていた

そうして出来た亜人の村“オルト”

その村は地図には記載されて居なかった

その異端を快く思わない者達による亜人の清掃

村にあった家々は黒と赤の炭になり果てその地は赤黒く染められた

鉄の匂いと肉が焼ける匂いが村を包み込んだ

“ 小さかった ” 彼を残して

第一話

「ハアハア…ゴホゴホ…！」

静かとは言えない森の中、息の切れる音と咳き込む音が森を超えんと走っていた

「うう。」

乱れた呼吸をしながら少年は走っていた。

限界を超えているからか煙りが辺りに充満しているからか呼吸は少しすると咳になりそのあまりに小さい体は本来有り得ない現状を起こしながら森を駆けて行く

三歳と云う小さな体は走る間に少しずつ大きく、もとい少しずつ成長し今では九歳の子供と同じ体格になり大きさの合わない衣類は破けてしまいもとの原型を留めてはいない。

左目の魔法陣のようなものは蒼い光を発し続け、左目からは血が涙のように流れ出ていた。

その光に比例して少年は疼くらしく時折苦しそうに声を出すがその足は止まることがなかった…少年は逃げるように走る中、その後ろには赤く燃える空と黒い煙りしか見えなかった。

ガッ

「っ！？」

少年は石に躓きそのまま前のめりに倒れこんだ。立ち上がるうと腕を動かすが体が思うように動かないのかそのまま崩れ意識を失った。

「ん！？こんな場所に子供？」

その少年は奇跡的に救われる事になる

能力と苦しみを運び込んで…「逃げ…」「逃げ…」「た、助け」

「イヤアア」「……」

「助けて!!」「」

…ビクン

「…スケ…!!」

少年のその声は余りにも悲痛でしかし報われない者達の声が重なるように籠もっていた。

涙を拭う。そして気づいた。

「体が大きくなってる?」

あまりうまくは話せなかったはずの言葉がさも当然のように口から漏れる。そして彼は冷静になり気づいたのはその場所は自分の家ではないことだけだった。

「ここはどこなんだろう?」

そしてその疑問はすぐになくなる。いや、正式には疑問の答えを考えなくなったと言うべきだろう。

少年はそのままの態勢で自分の中の何かに意識を刈り取られた

「逃げて」「助けて!!」「やつやめ…ウワアア!!」「俺達が何をしたんだ」「タスケテ!!」

頭の中をまるでもみくちやにされるように映像が流れ続ける

それは殆どが見知った姿をしていた

これは生き残った少年への呪い

魔法陣のようなもの…通称“呪印”

呪われし忌み子に刻まれた力

少年は呪印の持ち主、亜人。いや、少年がいた村の殆どは亜人だった

彼はその能力により自らが苦しめられていた。焼け付く村、死に逝く人々、殺しに来た敵、殺した敵、まだ能力を理解していない彼に

とつてこの状態は苦痛でしかなかった。
なぜか意識はしっかりしている。

それは見たくないのに見せられる“死”

それはあまりにも残酷で少年の心は閉ざされた…そして少年は目を
覚ました。

鮮烈な記憶、それは一個人のそれとはまるで違う“村”の死
それが頭を埋める中、静かに周りを見回した

「ここは…？部屋？捕まって…ない…のか？」

口調が変わり別人とさえ思えるほどの何かを宿していた。

ガチャ

ドアが開き少女が入ってくる。そして少年と目が合うと明るい笑み
を浮かべた

「起きたんだあ。・・・私カリンって言うの。よろしく」

可愛らしい笑みで起きたのを確認すると数秒なにを言うのか迷った
らしくカリンは自己紹介をした

「…助けてくれたのか？」

少年は少し不思議そうな顔で質問するとカリンは頷いた。

「俺は…エディ。助けてくれて感謝する」少し照れくさそうに言う
エディに対してクスリと笑うとカリンは起きたのを親に報告しに部
屋を出ていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1496q/>

トキノソラ～カナシミの楽園～

2011年10月8日13時53分発行